

武漢 NOW

武漢には多くの有名大学があり、若い活気あふれる町です。経済発展のレベルは中国でも有数ではありますが、まだまだ発展の余地を大きくのこしたこれからの町です。

なぜ武漢？

華東地域の人件費、家賃が高騰し、これまでの沿海地域での経済活動の雲行きが怪しくなりはじめた 2010 年ごろ、武漢が脚光を浴びはじめました。



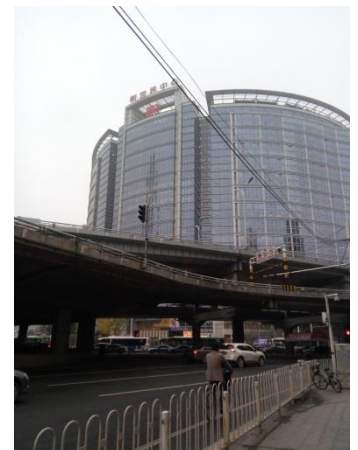
▲武漢の位置

武漢の位置、基礎情報

武漢は湖北省の省都であり、中国中部地域の最大の都市とされています。2014 年の統計によりますと、湖北省の人口は 5816 万人で、総面積は 18.59 万平方 km です。そのうち、武漢の人口は 827.31 万人で、面積は 0.84 万平方 km です。武漢には、長江、漢江という、大きな河が合流する地点があり、物流などに関しても優位な地理条件にあります。

また、武漢には、有名大学が複数あり、優秀人材の調達には事欠かないというメリットがあります。

しかし、湖北省の中で、武漢のみが栄え、省の中が廃れるといった過疎化が発生しています。



武漢の産業

武漢の主要な産業は、自動車、電子機器、食品、光通信ハイテク産業です。一方で第三次産業は、まだまだ遅れている状況で、外資産業が入る余地が多くある状況であるといえます。

武漢には、有名な大学が多くあることから、優秀人材の確保がしやすい環境にあります。また、沿海地域では、人件費や、家賃といったコストが高騰しているため、安い人件費、安い家賃を求めて武漢に拠点を移す企業も多いようです。

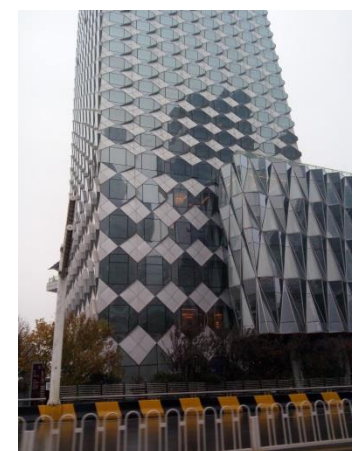
また、古くから発達したインフラが存在し、水路、高速、鉄道などが産業の発展を後押ししています。

▲武漢のデパート

武漢の大学

湖北省の中にある 66 の大学のうち、45 校の大学が武漢にあります。そのため、人口の火散るも、20 代の人口層が厚くなっています。中国では、数多くある大学のうち、中国国家重点大学といわれる大学があり、武漢でも以下の 3 校が国家重点大学にしていされています。武漢大学、

華中華技大学、華中師範大学。多くの学生が武漢で高等教育を受けているが、



▲武漢のオフィスビル

一方で、卒業後、北京や上海と言った大都会へ人材が流出しているという問題もあります。

武漢の生活

武漢には、他の大都市に勝るとも劣らないデパートなど、小売の店舗が多くあります。しかし、どこの店舗も差別化に乏しく、今後の発展性はあるものの、まだまだ未開の分野といえると思います。

大都市にしては、珍しく、武漢にはまだ地下鉄がありません。

移動には、バスや、タクシーが活用されています。

特徴的な食べ物として熱干面、鴨脖子（鴨の首を醤油などで煮込んだもの）があります。名前だけ聞くと恐ろしいですが、味は甘辛く、おつまみになりそうなものでした。

武漢と日本

武漢には、すでに 264 社の日系企業が進出しており、多くが 2 次産業の業界です。武漢に暮らしている日本人は、約 580 名といわれています。

武漢には、ファミリーマート、セブンイレブン、吉野家などといった、日系のコンビニチェーンや、飲食チェーンが進出しておりません。GDP の順位で言うと、中国国内で第 7 位にあたる、武漢ですが、まだまだ発展の余地を感じられます。一方で、今後は、イオンや、極楽湯といった、日系のサービス業、小売業も進出予定があり、武漢に寄せる日系企業の期待を感じます。



▲武漢の名物 熱干面



▲武漢の駅の一つ 漢口



▲武漢のショッピングスポット
武漢天地

【参考】Jetro 武漢スタイル

JEC

皆逸希国際貿易（上海）有限公司